

各研究施設・ユーザー数の推移と規模予測

参考資料1
 科学技術・学術審議会
 大強度陽子加速器施設評価作業部会
 (第5回)平成24年5月30日

| 研究コミュニティ | ユーザー数の推移(人) (内は外国人数) | | | | | 2017年予測ユーザー数の算出根拠 |
|----------|-------------------------|--------------|--------------|---------------|---------------|--|
| | 2009年 | 2010年 | 2011年 | 2012年 (予測) | 2017年 (予測) | |
| ハドロン | 347 (167) | 445 (212) | 466 (219) | 550 (250) | 800 (350) | ハドロン実験ホールは100kW定常運転となり、年間でより多くの実験課題(現在3件→6件)が実施されると予測。(ユーザー数の増大は~100人程度) さらに、2017年には高運動量ビームラインとCOMETビームラインが完成し稼働した場合、高運動量ビームラインで~50人、COMETビームラインで~100人が新たにユーザーとして活動する見込。 |
| ニュートリノ | 480 (391) | 502 (422) | 506 (421) | 500 | 500 | 世界の加速器ニュートリノ研究者はすでに過半が日本のT2K実験、残りが欧米の競合する後続実験に属しているため今後も大きな変動はない見込み。 |
| 中性子 | 830 (70) | 960 (80) | 1000 (85) | 1530 (130) | 5000 (420) | 海外の同種の施設(ISIS)のこれまでの実績を調査した結果、実験課題数、利用者数の動向は実験装置数よりは加速器のパワーにほぼ比例することが判明。MLFのこれまでの実績も同様である。2011年度の実績(200kW)を1MWになる2017年にスケールすると5000人となる。 |
| ミュオン | 129 (2) | 128 (7) | 150 (8) | 150 (8) | 660 (100) | Dラインのキッカー電磁石整備による1.5倍のビームタイム増(+70人) Uライン新設で、薄膜、生命科学の研究者等の、新規ユーザー(+60人) Sライン物質生命科学のユーザー(+180人) 現在、外国ミュオン施設のみを使っているユーザーが180名いる。 Hライン、基礎物理の新規ユーザー(+200人) 2012年段階で学生数、25名 |

※ ユーザー数は、課題申請書に記載された人数を、重複を除いて合計した数とした